

筑前續風土記拾遺

那珂郡

七

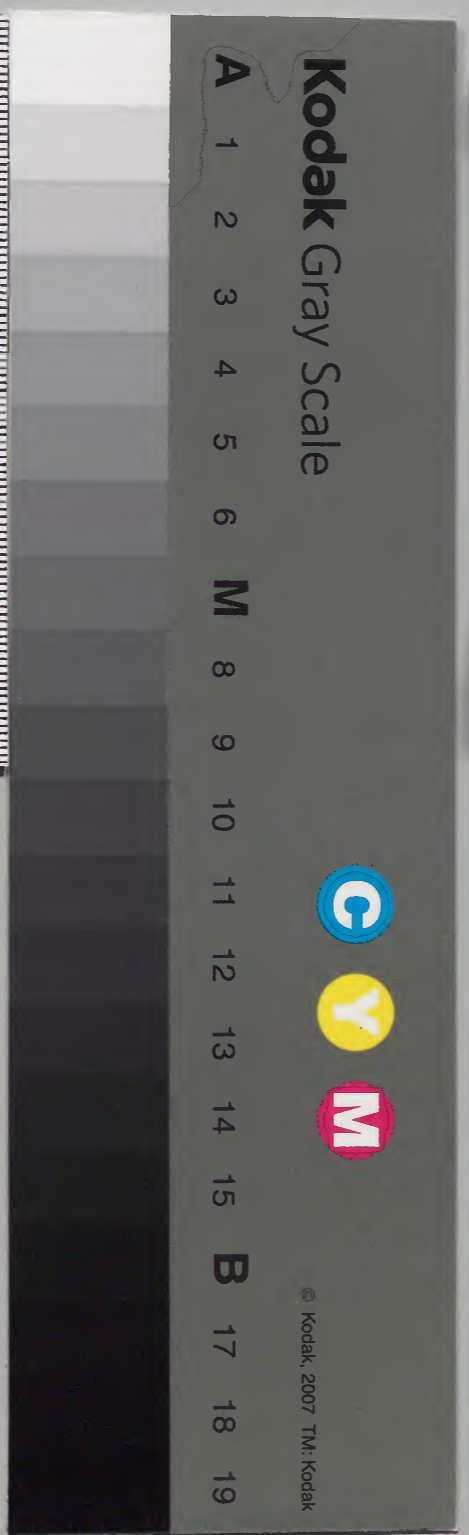
和書門	二九三七〇	函	一三〇	架	一四八	冊
類	號	號	冊	架	冊	冊

內閣文庫	和書	二九三七〇	函	一三〇	架	一四八	冊
類	冊	號	冊	架	冊	冊	冊

西一八四二號

地八二

內閣文庫			
番號	和	29370	
冊數	14 (7)		
函號	175	52	



高
74

筑前國續風土記拾遺 貞

那珂郡

七月廿五日
六月廿日



筑前國續風土記拾遺卷之

那珂郡貞目錄

仲村

山田村

西畑村

別所村

南面里村

成竹村

不入道村

埋鐘村

一ノ瀬村

五ヶ山村

綱取

道十里

大野

東河内

内一〇四三號



小ぬら神のりし此時當社を回録の災をか、り縁
起さ下神宮を悉く烏有とあり神司のあり弱年を
りしを生捕と肥前まで連行し神託は依り再び
り来りしとあり縁起はるりされども旧記悉く
焦土とありし上代の事蹟を今詳しすことあり
るにいさく古事本にありし所と澄してありし志
多かり社あり六一社神名詳玉依姫社少彦名命社
り抑住吉神と現人神と申すことあり香推とて神功皇
后に託し後此御神蹟は御形を以てし御軍の
船を導給りしより現人神と申奉るるあり即其

歌萬葉集卷六

石上し磨御配土佐国之時歌云々

繫カケ卷マク裳モ湯ユ々、之シ恐カシ石コシ住ミ吉ノ乃ノ荒アラ人ヒト神カミ荒ハ假イマ字ジ船フネ舳ノ余ニ
牛ウシ吐ハキ賜タマヒ比ヒ付ツキ将タマ賜マシ島シマ之ノ埼サキ前サキ将タマ依ヨリ賜タマ儀イ乃ノ埼サキ前サキ荒アラ浪ナミ風カゼ
余ニ不ハ令セ遇ヰ草クサ管ツ見ミ身ミ疾ヤマ不ハ有ヒ急イサ令セ褒ホ賜タマ根ネ本ホ國クニ部ノ余ニ
拾遺集第六

住吉のまゝりて、安法はら

天のあまの神のつらむおしを

おしをひらきすけりれ松

住吉といはれ此御神神后の御方と託して攝津国住

吉の地とありまゝを真墨江国とぬらまひく此地よ
住まゝ居りしをなほひしり御社を建てる住吉神社
と云其事日本紀より撰津風上記に云くしり志りれ
る此御社をいませ住吉の社号のなきむしりりの
御社をれし現人神と申奉るも神后の名つけ給
し給御名もや者へまきて此御社を今の住吉社と
遷されても從今の世に思ふ如く真住吉社とを
いしは社家の傳へたる文明の頃の文書にも住吉本
社と云ふるしりの條と今を云ふし神后に託給へる小
も吾居於日向國橘小戸而水葉雅出居神とのことし

又其神を祭り給らんとして神田を作して給へるも即此
迎へてかの裂田溝より今の世までも掛る水七
村の田を潤し当社敷地なるに橘小戸とを
是即此所なりと云ふも若此神宮の爰おまき
はる何と云ふ必切地して水をまきせ給ふもや大
神のこゝふまする所は嶮所といはせ給ふも溝を
を開給へりさして日向国といふ諸説多かれと何
れも橘小戸を筑前とす今の日向国なるぬらま
明るりされたるを日向とすといふもいふも
を朝日は向ふとす殊に賞を有る天子の宮造と上
古は東向とす

南面ハ後ハ漢の礼を学ひ終へるよりけり
一宮殿を東面する一山ありハ万葉集中ハ其
徴多ク西山を復く東一面日向の地をいへり
あり西の山を復く東一面日向の地をいへり
記傳字ハ委一當国早良郡日向時々山城国の日向
明神日向といハ東の向いより出づる名なり
此岩門河内十二村を西の山連て西隈後野行繩の
三村南より北は並びく全く東は向へり中ハ那珂川
流まゝ其餘の九村を安徳仲村と始て南より北は並
びく南の三村を川の西岸あり銘の九村を東岸ハ
在然れハ日向国といへハ此十二村のとうを即
今の岩戸河内より国といへハ山城ハ川
廻りて他ハ一區の地といへハ名をてハの

泊瀬国葛城国怡土国日田国なりハ名是也神代紀古事記
ハ筑紫日向橋小戸とありハ神功橋ハ地名なり
皇后紀ハ筑紫日向国ハありハ今西隈村の東那珂川ハ近き人家と立花木と云是也
多ハ一憶原とハ憶種類也ハ是ハ地名なり
ハ一ハ拍原松原赤原の類ハ一憶の木多く立る地也
ハ一ハ伊弉諾等の神所ハ一ハ此地名又日本紀私
記ハ住吉三神本在筑前小戸秋日本紀ハ住吉神本在
筑前小戸即神功皇后初遷居於撰津墨江耳古事記曰
住吉大神此荒魂者常在筑紫橋小戸和魂今在撰津墨
江耳神功皇后初遷居撰津墨江と云くハ其小戸

とりしを風早明神の前より西隈村の前より出流此
川の流れ両山の近き所より流出るゆゑの名なりと
しきて上古には此岩門河内の辺までと北海の潮の
来りしをいひし志のれを立花小戸といへるは住吉
神の生出流するを此ありと知し川水の海に流
れ入る所を門といへるなり宣化紀に当郡の宅村
を那津口とありていひし入海の遠く南の
山際まで来りしを知らし本編住吉社の名は上
より引く日本紀私記日本紀等の諸書を引て小戸
の橋の憶原と住吉の辺なりと交定すといへる

此説よりて猶上代より古書と地理とを合さ
る考を神代より今の住吉の辺と海底なると思
はる然れも古書に住吉神のますとありは即当社と
さしていひしなりいふ所の説に依て橋小戸と
いふ所を那珂川の内にていふ川水の海に流入
る所をいふなり伊弉諾等の中瀬に御潔く流る
りふとよりおろりて地名と那珂といひ始るなり
ハ仲村と中村と即和名抄当郡の御名那珂と此岩
門河内のとありて郡名の那珂と是よりおろりふ
多し隣村下梶原村の北は太戸山といふあり又其

向ふの老司村の西の山を大戸山と云是等ハ小戸
の名のかささの地名ハ残存ハあまあまの村と
考ふハし那珂川の東西ハ大戸の名あまハ何
由縁ハりけ也

山田村

民居冬木村と寺山田と有り此里五ヶ山の山口小あり
山間の平野あり北小御所泉あり山間河内と
別あり土地沃壤あり佳境あり村の西ハ那珂川流
給其向ふハ別所村の内井尻あり川上ハ不入道村ら
と流れ来り下ハ安徳村の内ハ入此村の境内川上

に馬の瀬とあり長壺町斗々其所小兄弟岩とて大
石高壺丈許々々の二ツ川中小立在村翁の説ハいハ
一ハ神功皇后の此堰手を築きて裂田溝ハ水を引給
そんと去々ハ一河川上より大石とありあまハ自ら流
れ来り人カと踏せんとてかほりの大堰手速ハか
けり其築終らんハ後ハ時ハ程ハ上より流来り石
ハとて中ハ河内とての下流石を傳めんとも皇后神
祇ハ祈給りハ一河川中の二大石忽ら自起上りて川
より向ふハ流来り衆石を留めんハ是即今の兄
弟石也とあり其下ハ道路の岸下ハ淵有鑿淵鑿竈

とりし路上より淵の水際より高四間許大石にさし
出さる下あり是本編の出る鞍掛鏡の住る所ふ
と此淵の下流を一堰手也堰手長八十三間打流一八
間あり是より水を引く裂田溝を引く凡岩門河内
町内七村の田地百三十許ハ皆此水と用て灌漑す

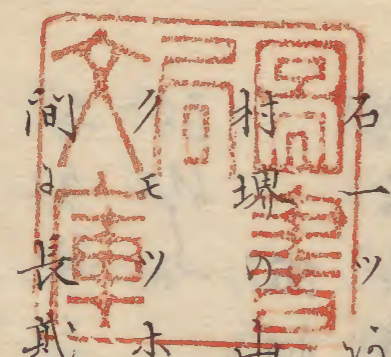
伏見大明神社

所祭と淡姫神神功の神功皇后武内大臣祇園を相
姉妹殿に祀給神后を伏見の御香宮より勸請とて因て
伏見大明神とて本編に詳なり社前降臨石とて
あり祭禮と十一月丑日あり此日神幸あり

神樂を轟岡へ振奉る

浄光寺

馬場在真宗西万行寺門徒なり○馬脊の下に婦夫



石一ツあり円石立と徑其間余あり今一ツも不入道
村塚の山の傍に在本編にいふ新大石是なり村民を
クモツホウ石といふ又馬の脊の上塔原とて所の田
間長貳拾間餘の塚あり首塚とて原より四町斗り
南也本編よりいふ此辺の田を作るとの年々酒と
いふ此塚と祭るといふ又本村の内上屋敷に古墓三
ツあり三角内藏之巫といひ士の墓とての枝郷寺

山田と本村の北はわたり村内の法性寺然して阿弥陀
堂残り浄光寺址を農人の宅とせし此寺近代一向
宗とせしれり正徳年中本村を移り東清寺址薬師
あり此三ヶ寺ハ世々一原田家の菩提寺なりしとい
ふ傳ふ

西畑村

民居と本村芋生^{イモノ}大山^{コナカ}中萩原と在芋生より以下四
所をわたりれと本村より半里許あり境内谷々多し
て廣し谷川三流あり一流を村の南芋生谷より出一
流を村の西小笠木峠より出一流を西北の方萩原と

梨流をゆく一ツ小會しと東の方別所に入ると那珂川
は落ると本村の東五六町深瀬の橋の上壹町許は鮎邊
の瀧あり高壹丈許と下は小湫あり此辺山中の佳
境也山内甚曠大なり
凡山坪數百七拾貳間
五千六百坪斗あり

山祇社

村の西に在産神也所祭と大山祇命木花閨那姫命磐
長姫命なり又枝郷芋生小中萩原と山祇社あり

教徳寺

真宗西博多万行寺門徒なり此寺始は南面里村の内
戸板ふ在しとの室曆の始は今の所を移り又本村内に

稻荷社薬師堂のり寺屋敷といふ古寺然るり名詳か
るは又碧海寺址とてあり虚空藏堂のり此外とて寺
然るり時代不詳なり本編にええり居寺の跡を
村の東北に斗山の中在石垣少し残れり野地の所
貳斗のり此村より早良郡小笠木より道あり坂
あり小笠木峠とてあり村の西北より山を越く同郡
柏原村より越くを萩原越とて福岡より行ふとの山路
近

別所村

民居も本村井尻次郎丸松尾御迎也新河川村の東に

あり上を南面里山田兩村の間より當村前を流るる
下を西隈安徳兩村の間より流るる又小笠木早生等の溪
水西畑よりありに來りて村の下より本川に會りて村
の名とせり背振山寺よりありあり

山祇神社

上別所茂林の中在大山祇命木花閼那姫命と祀り
社内大竹山也竹の岡壹尺余成あり本村の産神なり
又村の西に権現森とてあり神石立祭

火乱社

松尾の人々の小城山の南の禁を在文明年中花摘と

いひし山伏幻術を行ひしうを式部といふ者は課て
所司より伐せしと本編より出たり其矣崇とるを
ありし社を建てる社前より石窟あり又石積の墳
あり村民を地藏といふ是花欄の墓ありしは松
尾山の内山の榊竹林中より正源寺址といひし松尾と
井尻の間を御迎といふ本編より出たり

乙子社 山神社

枝郷井尻村よりあり此村産神は山田村の伏見大明神
ありありしを院使寺と書しを後より井尻に訛るとい
ふと本編より見えし此社のありし所即院使寺址あり

乙子社を乙護法なり是脊振山寺の護法神なり元亨
親書より見えし此神社肥前神崎郡脊振の中宮あり
あり当国早良郡脊振東門寺址よりあり神躰は童子
の像を安んずる乙子社の北より君命社といひし堪譽上人
の像を安んずる座像長壹尺六寸許傍より観音の立像二軀
あり君命といふ堪譽上人をいふ此僧昔君王の勅命を
うけし都より登りしと冥曲抄に在るはよりて君命と
崇といふ堂の後の山上より南より向ひし古墳ありき
四方より石を積上りし是塔を墓なり巫女一戸あり
諸堂を守は是より五箇山よりありし谷中往々寺址

多し是れいめへ脊振山寺の繁昌の時ありし僧坊の
跡あり別所といふと脊振山寺の跡ありし
の跡あり宴曲抄の内玉林苑は抑元明の聖代和銅二
年といふや三昧發明の上人湛譽をめさるるなり
則詔は応じて花浴の月日攀より帝闕の星を仰きて
効驗威光をか、子、の時は勅使のいさあり攀寺院
使寺と号せらるるを尋らるるをいふゆゑとていふなり脊振
の東谷千坊と世にいふを即五山より此辺より
僧坊をいふなり肥前国古跡記といへり○毘沙門
堂本村畑の中ま在古佛像長三尺半外は童子像あり

長壹尺五寸半ありいへ東谷千坊の内の寺址か
らへしむる村の西方西隈村の境に近き所谷川の上
に石仏あり高四尺三寸中貳尺五寸厚壹尺石面の上
小鉢陀の梵字円形の中を互まゝ左右に梵字三字
ありく中は南無阿弥陀佛沙門禪照其側は正平十二
年八月十日と彫り本村の南の山に冢上は大松植
て是を経塚といふなり此所と経ノ隈といふ○老林

古城古城記

南面里村

民居も本村上南面里戸板も在村名のり本編は見え

きり此村西南ハ早良郡板屋小笠木小境ひく高山峰
立山内廣く谷深くして林木繁し中くと巽の方を觀
音岳大丸山坤方合子冠大丸の坤の三山最高し鷲嶽ハ
其北不在く上の三山よりハ低し山中石楠花多し
く花の盛を美觀する福岡より脊振山小登りて北
村より戸板峠と越て板屋に至る路次峻るれと東
入部服山より行りては健徑なり村の東に那珂川あり
上を成竹不入道より出て下を山田別所兩村の境内
小入又溪水二流あり一流を枝郷戸板より出く北の
方西畑村より入一流を會下谷より流せ出く東北方本

川小流

山神社

上南面里に五産神あり大山祇命を祀る又枝郷戸板
山神社あり同所の産神あり

戸板大日

大岩の面に大日佛の像を彫り本編に悉し前小拜
殿あり拜殿の内は一扉をかましく権現を祀る拜殿
を一間半に貳間茅葺り前より當所の産神
山神社と其後在

正應寺

下南面里に在真宗西博多万行寺の末寺也。鷲嶽城
付藤原城○古
城記小一

延長寺址

上南面里の産神山神社の奥會下と云谷にあり大津
留氏の菩提寺として法華宗也。いふ大津苗落城の
後終に廢寺と云れり其谷に石垣所々に残りて淀川
灘躑多し昔の前裁の跡ありし谷に向ひて寺址の
左方茂山の岩崖の半腹を碑石の如く方少し長く
削りて銘あり當所城事永祿三年とあり其餘を削り
て云々當城を築くと記せり云々

成竹村

民居多本村前峠本村の西十五町寺倉本村より八町西北に在山谷甚
廣く茂林鬱々たり村の上は市岳カクメキと云高山
あり夫より西に続きて峻嶺重々カクメキと一岳の
間を越り早良郡板屋にゆき道あり石峠と云谷の内
左右杉の美林多し村より峠まで西方十四五丁あり
村の東北に那珂川流る川上は市瀬村より流る下
を不入道南面里兩村の境に入まき溪流一筋なり山
奥石峠より流出て寺倉前より本川にゆき今一筋前
峠の下の溪流直に本川に落る所瀧と云れり高壹丈

巾五尺ほりり巖石に激し水音高し依て鳴滝と云
村の名も是より出たり今成竹と書と訛あり慶長の
田畠高帳に南畑村の内成竹市瀬不入道梅金しりり
又是を四畑共云なり

日吉神社

所祭神大己貴命天御中主命彦火々出見尊也當村の

産神なり附祿は相殿に山市瀬村より勧請は

山祇社

枝郷寺倉の産神なり所祭大山祇神木花岡耶姫命也

又薬師堂毘沙門堂西倉にあり薬師の東に所々あり

貳畝半ほどの畑あり此地本編より出たり脊振山寺の米
倉のりりし所あり同く此人家と寺倉とあり○筑紫
上野介惟門の墓一ノ嶽城の址にあり銘小○○院良
龍禅定門とも筑紫氏系図に惟門に法名虎岑良龍大
居士とありとれり一し永祿十年五ヶ山城自殺とも
塔に元龜四天十月廿六日とありは塔建立の年月か
る一し委しきこと古城記に見たり

不入道村

民居を本村中地山中に在山田村のよに疎きて那所
川の東に村居あり此村より上を古脊振山領りりし

か守護不入の地あり〜たゞ不入道村と只〜本編
は是より村の西に那河川あり上と峠埋垂の間
と流をききり〜下は山田寺地至おの境に入流
一筋埋垂村の内より流を〜當村の下〜本川は入

日吉神社

村に東池谷註産神也所祭成竹村の日吉社と因〜元
禄六年一激の日吉社と勅修を〜いふい〜
大山祇神末花岡姫と祭と〜山神社といふ〜附
録り〜
○猫城古城記 ○村東五所斗谷水は橋
みれ居れ〜瀧有不入をの瀧と〜高九間斗頗美観か

是北の岩峯は地字を彫たり観音と云々〜と観音
堂あり〜此瀧水源を枕茶山の方より流をきき
地名を瀧口といふ

埋鐘村

民居を本村四郎五郎多々良に在此村の名をせ〜
背振山ちの鐘を埋〜より村名と〜た〜本
編に見〜那河川村の西を流上と市瀬村より
出〜下を不入道村の境〜溪流一筋本村の東四
郎五郎谷より流出〜那河川といふ

日吉神社

産神ありて、山祇社あり、寶曆年中、市瀬本社日
吉神社を併せ祭るなり、日吉社、いふ、本社の
東方堂原、稲荷社も是れ旧社、のよ、いつ、雷神
社人家の上、大杉立の所、小祠あり、村民信ず、いふ、
か、一人ありて、一嶽の上、雷神の告る、神跡
の、古木と負りて、来りて、祠を建て、其年曆詳ふ
古、其、住吉社、里民々虚空、いり、倒の、岩、大
岩あり、梵字并佛像二幅を彫り、其前の、卒山の上、
五輪石塔あり、弘、仁元丁、十月三日と彫り、
仁元丁、其、此塔の下、塔を埋あり、

又境目奉行役宅に庭より、泰山府君の櫻あり、其下、小理
みたり、又白坂より、所、脊振神を祀る、社
あり、村民、辨財天と云

光蓮寺

多々良に在、真宗西方行寺、未、寛文十三年四月、小
筑後国より、小移す、い、開、善といふ

一瀬村

民居も本村下代久地、堀切黒木、大谷、苗尾、此外、大浦
山、神田、町中、原木、質坂、城猪山、山谷の間、散在、一
戸二戸三戸、い、所、小在、凡、民居十三、所あり、境内

山谷甚廣一南より岳虎、岳亀、尾山等の山嶽浮立而小
那河川流り上を五ヶ山村より流り出くちを成竹埋鐘
打の内よりいふ其の村の東の山中浮堂部平字の堺
控貫流より溪流一筋出く枝郷大谷の字と流れ又村
北東の山より溪水一筋多く同く本村の上より其
小本川より流り此村東に記ある其父那河内村小流り
西に成竹村南を五ヶ山村北と理金村と接す

日吉神社

所祭神天御中主尊大己貴命彦火々出見尊より麻生
降延肥前神崎郡仁比山日吉を勧請よりとりて四ヶ畑

其惣括より又猿山といふ無人家の例に辭然天祐を
背推山よりいふに勧請すといふ又黒木といふ所小
い龍社有銀杏杉の大木の森の内之○瀧見観音村の
西那河川の辺より地名をいふ観音といふ小堂あり觀
音の像を安置し其川の岸に地を掘り乾の方川を
隔り鳴瀧小對より流り直に那河川に流り佳景
あり下の堰手を観音井といふ又村の前田中小葉
師堂も地名を某所ありといふ又西岩といふ所小
地藏堂あり吉寺址あり○南林寺古址村の北の入口
東方人家の裏小あり頭風山南林寺といふ様ありりた

今と観音の小堂の側の古榎あり大石は野右立り并
於天と云又大杉立り周壺丈六尺あり其下は五輪塔
あり本編といふ所探題千葉氏の墓なり村氏を
一嶽城主の墓と云是千葉胤勝の墳り胤勝は太宰少
貳教頼の二子少貳政資の弟千葉胤治の孫胤繁の子
也一族千葉喜胤は肥前小城郡を奪りれて大永四年
五月二日小筑前小邊へ也此人一嶽を築き住せり
是の塔の南は古墓
のり墳上は古樹の三圃許あり立り誰人なりや詳か
らざる

其の若く麻生民部少輔なり人の其奥は虎岳城主の
墓と云古松の下は大石立り是を波川萬壽丸の塔か
多し此人虎岳にて其臣のふり弑せられしを
古戦場の部と云せり其側は石窟あり石佛立
り其奥は古木五輪塔三ツ並へり皆梵字を誰人の
志ありや志くれを○黒田養心居士の墓を村の西川
を境り高所は又館址なり今も志るといふ石壁の
跡残り墓より四町許南なり○此村より五山は行
本道左に亀屋古城あり是を網取村の内なり右は一
嶽の古塚なり此城山一瀬村の田なり本編は是

之をこれとて是ハ城竹村の内なり峰の東ハ當村ニ属
シ亀屋の次南ニ並びテ虎岳峰山なり是を岩ふと云
ふの境あり一岳と亀尾との間の坂を亀尾峠と云又
ツタル通と云此峠ニ至ルハ左ニ轉リテ川ニ沿
行右の山下小人家あり堀切と云左の方川の北ニ
人家と云木と云を尋テ中条の人忍あり此四所ハ皆
一階のゆかり尚者ツタルブチといふ夫より川ニ沿
ミ行キ川系ニ大石多くあり赤石と云大石の間と水
流急ク徒渉なりぬ〜木と結核と〜とわ〜上ニ
小淵あり赤石より仰見ハ流急ク右の方川を南〜

高く聳〜大巖立ニ是西不動岩なり甚奇觀なり其
以〜上小淵返りの淵あり下ニ淵あり其二所餘東の
岸ニ東不動岩なり西不動〜ハ高く大なり其巖ハ
流〜回〜形〜奇石立ニ本の方は一ツ巖なり上の
方も以〜傾〜仰見〜人の頭上小〜カ〜〜
於岩間ニ石薺風蘭等の草生多く見け此辺川の左
右春ニ櫻花〜多ク秋ニ楓多〜ハ紅錦と云〜
如シ此不動岩ハ梵字あり〜本編ニ〜〜今
〜〜此川筋西の方ニ亀尾岳虎岳併テ鬱蒼〜
〜數峰秀〜是より野山を登〜茂林の中と云行

と拾町斗りし道十里村より東不動の南ハ道
十里村の内より野山を出て亀尾峠より往還と一
ふありたり亀尾の南にすこの坂をえ返り坂といふ
道十里よりこの是路甚峻阻より往來の難タル
の方ハ川中大石多く其上を彼方とれりるを海より
其間小川流きく城を築く難く格うして通難き
とある所をゆり

亀尾城 虎岳城

古戦場記より虎岳城と云すは水
と山といふ五箇山村の堺あり養山より此両山と一

嶽の間の坂を亀尾峠と云其南の方五山小下る坂を
見返り坂といふ是を五山の内より此道五山越とい
く祀前神崎郡田島村小至本道より彼国よりと脊
振越といふ

五箇山村

民居を本村を網取と云道十里素河内東小河内大野
落合より在若合を大野の内より網取より大野まで五
村ありしよりて五山村の名あり村の境系ハ祀前国
基肆郡河内村養父郡牛原村ハ山を以て境と云南を
同国同郡山浦村立石村山田村神崎郡坂本村西小河

内村凡五村小境ふ西を當国早良郡枝屋村に境ひ北
ハ市瀬成竹の二村に境ふ此五ヶ山の地四畑の奥に在
り網取道十里より入るは漸く谷窄く迫りて固に深山
幽谷なり故に田圃甚しく五村に口うくといへり
僅田圃十三町餘石高百三拾七石余をされり人家
を五十四軒あり是山家の平野の村里よりを民の產
業多きゆゑ小家族人數ハ田圃の數より多しといは
るゝ山家は同一山谷曠濶なり依りて農民薪炭を敷
き或は紙をすき茶を製し山菓をとりて市中に物出
す又杉松等の美材多し村落ハ那珂川の左右の岸に

浜てあり凡其地市瀬村の境より南方肥前国境まで
道程二里許あり那珂川の水源を二流ありて一流を
肥前小越ゆき津地境牟田の谷より出く兩國のさう
ちと經く大野の人家の西を流れく若合にあり一流
を早良郡枝屋村の北より出く其下流を其下吉川と
りし所より其南北の山より溪水出く三流一所に集
束東小河内西小河内の間より大野村の内谷合より
其の水と一所に會て依り地名を落合と云是形河川
の本流なり大野落合兼河内道十里の人家の川の右
に在る小河内網取の二村は川の左にあり
より四ヶ畑

より下る順 其下は市瀬村の内より此所より小法流
とあり 激湍あり水石の美あり 此所の山川より勝道を
東山中隈極多し 四町の眺望あり 世に誠なる佳
境より小法流 奉編りし志あり 此地の他ふ跡はた
多しといひあり

山神社

五ヶ山村小山祇社四所 網取大野東小河内道十里に在
皆彦神なり 網取大野東小河内三所の社を皆大山祇
神磐長姫と祭祭是十里の社を大山祇神磐長姫木花
開邪姫命の三神なり 此社に道十里東野河内の彦神

より道十里山神社の南偏に乎賀玉木の太樹あり 周
四圍半あり 民俗を紫檀樹と云誤なり 社の側は御高
所殿より末社あり 又網取の山神の社内より乎賀玉
木あり 社の東の側は太岩あり 弁財天の小祠あり ○
鞍掛神社 大野の内鞍谷に在人家より拾所斗上之大
岩を神体とす 祭は 道の神なり 詳なり 大
○ 稻荷神社 東小河内 ○ 葉師堂 道十里にあり堂前小
小祠あり 銀杏の太樹あり
○ 観音堂 網取東河内東小河内三所に在 東河内の観
音堂より隊長五尺半正観音也 古作なり 寺の側小山
あり 瀧は石の中島に弁財天堂あり 此水の流是小山
椒魚の石を前より大杉二本立り 又東小河内の観音堂

吾人家の際寺裏と云所も在古寺址なり嘗内小堂も
間基柱岩次程傳と記も位牌あり年月よく其奥
藪の内小土を築き竈の形にみくさうの類なるあり
いみじく火葬の竈なりといふ世所なり
寺址めく観音堂と云り今の所は移なり○船地
藏道十里と桑河内との間野中の道に傍小小森を其
ゆ大と云船形石を其上に石佛あり○吾山と網糸と
の間見送り坂のよ小丸小山を淨所と云淨屋敷と
云一丁森の里城と云し古城記小其南の岸下塚本と
りふ所と五輪塔あり俗小松浦佐与姫の墓と云いふ

かゝ又網糸の山神森の北の畑の口古墓多し中小五
輪塔あり四方小梵字を彫たり石面小法慈禅居とも
外り年月字の文字もよく其股小五輪の類れと云あり
まゝあり古寺址ならんり今も民家の裏なり○九千
部山と道十里桑河内市瀬に属山山の岩より南ハ肥
前国養父郡河内村平原村なり昔々性空上人法華
經を九千部讀く理まゝと云本編より云り山より
うは石を埋て建と云三重の石塔今もあり故小山
の名を九千部といひ塔を所を塔の尾といふと其
傍祀前のうと云弁天の石祠と建と云り此辺より

眺望眼界廣く佳景あり此山の南小嶺て低く黒
山の上のニツ小倉まう山巔の見ゆは養父郡牛
原村の上るは膝尾占城山也筑紫氏代々此城はお色
東の方小豊前田河郡香春山をゆ西は肥前国高
来郡る温泉嶽藤津郡る多羅峰南は筑後国中河
赤水くみ酒く久留米柳川の城樓と眼下は見え口
ありあり一階の方より此山の東北の大谷を越て肥
前国田代くゆく是を田代越といふ峠の左の谷は御
笠郡平等寺村より道の左の丸き岩を同村の白山社
あり嶺より峠の南を即田代領へ○天塘岩を東河内

より道の右小奇石の重たな山の出き記あり其左
方川の向ひの岸の川原の中は天塘池とて少長き水
溜の所ありいづれも所よりや左の川向ひ小大谷を
東河内より東河内より川流きて行を左右小衢あり
右を東小河内道左は女野より肥前神崎郡は越行本
道より川の向ひは丸山を里民を猫城とて本編には
白土城といひ其下東西二川の會する所を落合とて
是西を脊振山より出南流は地燒峠より出る川より
て此二水を那河川の水源なり大野の方より道の東
に大谷あり廣瀬といふ東河内と女野との堺なり大

野人家の南森中地藏あり後の林中は高貳尺余の
五輪塔三ツあり其外にも墓石あり古寺址あり
いづれも人なりや詳ならず大野より肥前神崎より
山は村より十町半と道の左に山伏塚とてあり又其
先小鳥帽子岩とあり地焼とて峠のち小野あり
此辺兩國の地入交りて犬牙の如し目くら落しとて
馬のかりねの如き赤剝の上小肥前の境石野石立
此左の峯筋兩國の堺とて九千部山とて此尾筋と登
るより直小峠を越ゆけと此前の番所ありこれ神崎
郡坂本村の内なり
坂の右小脊振山中宮あり
天台の坊舎敷區あり 東小

河内も大野別谷より前よりた松猫城山の右の谷
奥より脊振よりいづれ川と流れて登とゆけは道の左
方川辺小大成峯より是山祇社あり森の西南は大か
ら淵あり其西岸は瀧ありと直に淵は流るち高五
間よりつり岩をけり層々を落る先児落瀧より下
の淵甚深し水色藍の如し森は古樹多し檜大木淵上
小横よりより樹小風籟石斛岩すこれ等の苔蘚多
く厚きより好景なり其向は肥前国神崎郡西小河
内村より東小河の人家と對あり其間三町許あり瀧
の上は小川を以て境とて東小河内人家より此川小

済子ゆけを早良郡板屋村へゆくより其間の山嶮か
る



